

安全データシート

1. 製品及び会社情報

Cat.No. : 502810
 製品名 : Nitrate Test
 会社名 : セントラル科学株式会社
 住所 : 〒104-0053 東京都中央区晴海 2-1-40 晴海プライムスクエア
 担当部門 : 技術サポート部
 電話番号 : (03) 3812-9186
 FAX 番号 : (03) 3814-7538

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 健康有害性 急性毒性：経口：区分4
 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性：区分2B
 特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）：区分2（神経系）
 特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）：区分1（全身毒性）
 環境有害性 水生毒性（急性）：区分3
 水生毒性（慢性）：区分1

GHS ラベル要素：



危険

危険有害性情報：飲み込むと有害

眼刺激
 神経系の障害のおそれ
 長期又は反復暴露により全身毒性の障害
 水生生物に非常に強い毒性あり
 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き：

<安全対策>
 粉塵又はヒューム、ミスト、ガス、蒸気を吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 <応急措置>
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用
 していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。刺激が続く
 場合は医師の診断、手当を受けること。
 気分が悪い場合：医師の診断/手当を受けること。
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
 暴露した場合：医師の手当を受けること。
 漏洩物を回収すること。
 <保管>
 施錠して保管すること。
 <廃棄>
 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理す
 る。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名	含有量	化学式	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.
塩化アンモニウム	90~100%	NH ₄ Cl	1-218	12125-02-9

4. 応急処置

- 吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。医師の手当を受ける。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類を全て脱ぐ/取り除き、直ちに付着部を多量の水で洗い流す。
- 眼に入った場合：直ちに多量の流水で 15 分以上洗い流す。きれいな指で瞼を開いて洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。
- 飲み込んだ場合：よく口をすすぎ、コップ 1, 2 杯の水を飲ませる。嘔吐させ、直ちに医師の手当を受ける。
- 重要な徴候：吸入した場合：咳、粘膜の刺激性、呼吸困難
飲み込んだ場合：CNS 疾患、頭痛、嘔吐、意識不明、吸着

5. 火災時の措置

- 消火剤：周囲の状況に適した消火剤を使用する。
- 火災時特有の危険有害性：本製品は不燃性である。
火災時に有害なガスが発生するため、消火の際には適切な保護具を着用する（窒素酸化物、アンモニア (NH₃)、塩化水素 (HCl)）。
- 特定の消火方法：火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合は周辺に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護：消火活動は風上から行い、有害なガス又はミストの吸入を避ける。適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置：作業の際は適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、蒸気を吸入しないようにする。関係者以外の立ち入りを禁止する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項：流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。汚染された排液が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法・
機材：飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。漏洩した箇所は大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策：取扱いは換気の良い場所で行う。局所排気施設内で使用する。使用の際は適切な保護具を着用する。取扱い後は手を洗淨する。
本製品は吸湿性である。
- 注意事項：開封や取扱う際に粗暴な扱いをしない。皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。漏れ、溢れ、飛散等しないようにし、みだりに粉塵、蒸気、エアロゾルを発生させない。使用中に飲食、喫煙をしてはならない。取扱い後は手を洗淨する。
- 接触回避：アルミニウム、銅、鉛、鉄
- 安全取扱い注意事項：吸入したり、目、皮膚および衣服に触れないように適切な保護具を着用する。使用の際は適切な換気を行う。

保管

適切な保管条件： 高温、直射日光、水、湿気を避ける。
密閉して換気の良いなるべく涼しい乾燥した暗所で保管する（20±5℃）。

安全な容器包装材料：

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに洗眼施設及び身体洗浄施設を設置する。

管理濃度： 設定されていない

許容濃度

ACGIH TLV (s)： TWA 10mg/m³（ヒュームとして）（塩化アンモニウムとして）
STEL 20mg/m³（ヒュームとして）（塩化アンモニウムとして）

日本産業衛生学会： 設定されていない

保護具

呼吸器の保護具： 保護マスク

手の保護具： 保護手袋

目の保護具： ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具： 保護衣

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態・形状： 固体・粒状
色： 白色
臭い： 無臭
pH： 5.7@20°C（14.7g/L）
融点： データなし
沸点（初留点）： データなし
引火点： 適用なし
燃焼性： 不燃性
燃焼又は爆発範囲（上限・下限）： 不燃性
蒸気圧： データなし
比重： 1.519g/cm³
溶解性： 水に一部可溶

10. 安定性及び反応性

安定性： 安定。
危険有害反応可能性： 水溶液は酸性の反応する。
避けるべき条件： 加熱
混触危険物質： アルカリ化合物、アルカリ、酸、ハロゲン化合物、塩素、酸化剤
危険有害な分解生成物： 窒素酸化物、アンモニア（NH₃）、塩化水素（HCl）

11. 有害性情報

製剤についてのデータは無い。

急性毒性： 塩化アンモニウムについて
経口 ラット LD50=1650mg/kg

皮膚腐食性・刺激性： 塩化アンモニウムについて
6匹のウサギの各2箇所（合計12箇所）を用いた Draize 試験（GLP 準拠）において、適用24時間後の紅斑のスコアが、2が7部位、3が5部位であった。48及び72時間後の紅斑、浮腫及び痂皮のスコアは全ての動物で0であ

り、個体毎の平均スコア値は何れも 1 以下である (SIDS(2009))。

- 眼に対する重篤な損傷・刺激性： 塩化アンモニウムについて
ウサギを用いた試験で軽度 (mild) の刺激性との記述 (ACGIH(7th,2001))、また、点眼後 10 分、1 時間、24 時間に中等度 (moderate) の刺激性が認められ、発赤、浮腫ないし角膜混濁などの変化は 8 日以内に跡形も無く回復したとの記述 (SIDS(2009)) がある。
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性： 塩化アンモニウムについて
皮膚感作性：モルモットを用いた皮膚感作性試験 (maximization test:GLP 準拠) で陽性率 10% (2/20) であり、基準の 30% より低いため「感作性なし」との報告 (SIDS(2001)) がある。
- 生殖細胞変異原性： 塩化アンモニウムについて
マウスに腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験 (体細胞を用いる in vivo 変異原性試験) で陰性とする報告 (SIDS(2009)) がある。なお、in vitro 変異原性試験の Ames 試験で陰性 (SIDS(2009))、Cytogenetic assay で陽性 (SIDS(2009)) の報告がある。
- 発がん性： データなし
- 生殖毒性： 塩化アンモニウムについて
ラットに経口ばく露による二世世代試験において、外見上の奇形はなく、高用量で生存仔が得られず中用量でも同腹仔の半分が死亡した (IUCLID(2000)) が、試験物質として混合物 (本物質 42.9%) が使用されたため評価が困難であり分類根拠としなかった。ラットに妊娠 7 日目から飲水投与により催奇形性は認められず、胎児の成長阻害が認められたが、投与量から明らかに母獣の代謝性アシドーシスによるものと結論付けられている (SIDS(2009))。一方、ラットの妊娠 9 から 12 日に混餌投与 (6%) により代謝性アシドーシスを認め、60 例が懐胎、20 例が吸収されたとの記述があるがそれ以上の情報はなく、対照群も設けられていないので分類できない (IUCLID(2000))。また、マウスの妊娠 10 日目に 600mg/kg を 1 日 4 回経口投与により、胎仔の 7% が欠指との記述 (Teratogenic(12th, 2007)) がある。
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)： 塩化アンモニウムについて
経口投与により、ラットでは 1000mg/kg bw 以上で呼吸困難、無関心、姿勢異常、よろめきの症状、マウスでは 1200mg/kg bw で下痢、チアノーゼ、失調性歩行が観察された (SIDS(2009))。これらの症状と剖検での脳出血の所見 (SIDS(2009))、さらに塩化アンモニウムの摂取後に中枢神経障害の発現が報告されている (EHC 54(1986))。なお、ヒトで大量摂取の場合、嘔気、嘔吐、頭痛などの症状とともに進行性のし眠状態を生じ、アシドーシスと低カリウム血症を起こす可能性があるとの記述されている (SIDS(2009))。
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)： 塩化アンモニウムについて
塩化アンモニウムの長期間 (6 ヶ月) 摂取により疲弊と空気飢餓感のため、あるいは呼吸亢進と錯乱のため入院に至った (代謝性) アシドーシスの症例、および短期間摂取後軽度の (代謝性) アシドーシスを発症した症例など、アシドーシスに関して複数の報告 (SIDS(2009)、ACGIH(2001)) がある。なお、ウサギに高用量を経口反復ばく露によりアシドーシスが観察されているが、ラットに経口による反復ばく露試験で

は重大な毒性影響は認められず、NOAELに関しては70日混餌投与試験で684mg/kg bw/day（90日補正：532mg/kg bw/day）（SIDS（2009））、56日混餌投与試験で493 mg/kg bw/day（90日補正：307mg/kg bw/day）（SIDS（2009））であった。また、ウシに112日間混餌投与ではNOAELが206mg/kg bw/day（SIDS（2009））である。

1 2. 環境影響情報

製剤についてのデータは無い。

生態毒性：

魚毒性

塩化アンモニウムについて

魚類（ブルーギル）の96時間LC50=74.2mg/L（ECETOC TR91,2003）

残留性・分解性：

データなし

生体蓄積性：

データなし

土壌中の移動性：

データなし

オゾン層への有害性：

データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：

多量の水で希釈して、pHを中性に調整した後、下水へ流す。

廃棄前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

汚染容器及び包装：

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国連分類：

非該当

国連番号：

非該当

海洋汚染物質：

非該当

注意事項：

輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実に行う。

1 5. 適用法令

毒物及び劇物取締法：

非該当

化学物質管理促進法：

非該当

労働安全衛生法：

施行令第18条名称等を表示すべき有害物（塩化アンモニウム）

施行令第18条の2名称等を通知すべき有害物（No.96 塩化アンモニウム）

水質汚濁防止法：

施行令第2条有害物質（塩化アンモニウム）

1 6. その他の情報

引用文献

Lovibond Nitrate Test（Cat.No.502810） 2012.03.30

13901の化学商品 化学工業日報社

化学物質安全情報 研究会編 オーム社

化学大辞典 東京化学同人

関東化学株式会社 製品安全データシート（塩化アンモニウム）

和光純薬工業株式会社 製品安全データシート（塩化アンモニウム）

安全衛生情報センター <http://www.jaish.gr.jp/>

独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.nite.go.jp/>

この製品安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。

また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

なお、注意事項は通常の実施を前提としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。